



「54歳原則出向」に関する対応は、傲慢、不誠実極まりない!

管理者から面談通知!

「察して下さい」「将来の大事な話」は不安を煽り、問題だらけの出向だと言ってること!

8月18日より大阪第一、第二運輸所の管理者が、「新幹線乗務員の54歳以上の出向」の対象者となっている社員を中心に、面談の日程について声を掛けています。声が掛かった社員は、それぞれ管理者に面談の内容を聞きますが、管理者は「察して下さい」「将来の大事な話し」としか答えません。こんな対応では不安だけが残り、面談を承諾出来るものではありません。

会社は、4月15日に労働組合に説明した内容に沿って、既に7月以降、東京の運輸所の14名の新幹線乗務員に対し関連会社以外への出向を命じました。出向を命じられた殆どの人が希望しない旨を主張しましたが強制的に配転されました。事前の管理者の対応や、出向先の労働条件についても多くの問題が浮き彫りになっています。会社は、関西支社においても10名の出向を予定していると明らかにしており、仮に会社の制度として社員に協力を求めるならば、はっきりと理由を言って、丁寧な説明と本人の希望を聞くべきではないでしょうか。

労働条件の引き下げと、「出向」の名を借りた不当な転勤・配転は反対だ!

社員への声かけを行なった管理者は、社員の将来や生活について、責任もって対応しているのでしょうか。今回の対応は、自分の言葉では説明できない無責任な対応としか感じられません。更に「将来の大事な話」とはどういう意味を持つのでしょうか。社員の労働条件に責任持てない関連会社以外への出向について「大事な話」としてあざ笑っているとしか言えません。

私たち東海労は、労働組合を通じて管理者の対応について抗議しましたが、東海ユニオンは見ぬふりでしょうか。恐らく管理者を擁護し、今回の出向については推奨しているのではないのでしょうか。

出向や転勤に納得出来ない場合は、「簡易苦情申告票」を提出して反対の意思表示をしよう!